

技 術 情 報

長崎県病虫害防除所長

令和8年度病虫害発生予察技術情報第2号

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ）の 新世代成虫の果樹園への飛来時期予測について

8月以降は、果樹カメムシ類が越冬成虫から新世代成虫に入れ替わる時期となります。

新世代は主にヒノキのきゅう果上に生息し、きゅう果が餌として好適な期間はヒノキ上にとどまりますが、きゅう果の吸汁によって劣化が進み、餌として不適となるとヒノキから離脱して果樹園へ飛来します。

現在、ヒノキ樹上の寄生虫数は平年より多く、ヒノキからの離脱予測日は平年より早い見込みであり、地点によっては8月20日頃とかなり早い所もあるので、今後の果樹園への飛来に注意してください。

記

1. 発生状況について

- (1) 7月16日及び17日に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は3.7頭（平年 1.6頭）と平年より多かった（表1、2）。
- (2) 7月16日及び17日に実施したヒノキきゅう果の着生状況調査の結果、県内15地点の平均着生量（指数）は2.5（平年 2.9）と平年並（表2）であったが、少ない地点も見られた。

表1 ヒノキ樹（きゅう果着生枝）における果樹カメムシ類の寄生状況（令和8年7月16、17日調査）

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計	きゅう果 着生量 (指数)*
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計		
令和8年	1.9	0.17	0.14	0.46	2.6	0.84	0.12	0.15	0.02	1.1	3.7	2.5
平年	0.7	0.2	0.3	0.2	1.3	0.2	0.1	0.1	0	0.3	1.6	2.9

* きゅう果着生量は、程度を5段階（多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1）として達観調査した

表2 果樹カメムシ類の寄生状況およびヒノキのきゅう果着生量の年次別推移

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	平年	R8
寄生虫数(頭/枝)	0.3	2.6	4.9	2.6	0.6	0.5	2.2	1.0	1.2	0.5	1.6	3.7
きゅう果着生量(指数)*	2.3	3.5	2.9	3.5	2.1	2.3	4.0	3.1	2.3	3.4	2.9	2.5

* きゅう果着生量は、程度を5段階（多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1）として達観調査した

2. 果樹園への飛来時期について

- (1) 7月16日及び17日に採集したヒノキきゅう果の口針鞘数調査の結果、調査地点の平均の口針鞘数は2.4本（平年 2.5本）と平年並である（表3、4）。
- (2) ヒノキからの離脱予測日は、平年より早い見込みであり、平年よりかなり早く予測されている地点もあるため、飛来時期に注意する（表3、4）。

表3 ヒノキきゅう果における口針鞘数及び離脱予測日

調査地点	7月16、17日採集	
	口針鞘数 (1果当たり)	離脱予測日
諫早市多良見町東園	1.6	9月2日
諫早市多良見町佐瀬	3.1	8月27日
長与町岡	2.9	8月28日
時津町西時津	1.5	9月2日
西海市西彼町小迎	4.9	8月21日
西海市西海町木場	2.6	8月29日
諫早市長田	0.4	9月7日
大村市今村	2.4	8月30日
東彼杵町赤木	2.7	8月29日
雲仙市瑞穂町伊福	1.6	9月3日
雲仙市国見町百花台	2.2	9月1日
南島原市有家町新切	0.7	9月6日
南島原市北有馬町田平名	2.0	9月1日
佐世保市宮	4.4	8月23日
佐世保市針尾	2.7	8月29日
平均	2.4	8月30日

表4 口針鞘数及び離脱予測日の年次別推移

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	平年	R8
調査日(月/日)	7/21	7/24	7/25	7/23	7/21	7/21	7/21	7/20	7/24	7/20	7/22	7/16
口針鞘数(本/果)	0.8	2.0	9.7	1.1	2.5	1.2	2.5	0.9	3.6	0.8	2.5	2.4
離脱予測日(月/日)	9/10	9/9	8/15	9/11	9/4	9/8	9/4	9/8	9/3	9/8	9/5	8/30

注1) 令和8年7月16日、17日に採集したきゅう果30果についての口針鞘数を数えた

注2) きゅう果は1果当たりの口針鞘数が25本以上になると餌として適さなくなり、餌不足になったカメムシはヒノキから離脱して果樹園に飛来する

注3) 予測日は予測式(福岡県農業総合試験場作成)を利用して算出した

注4) 各項目の値は全体の平均値

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 上記の予測日を目安に見回りを徹底し、カメムシ類の飛来が認められた場合には早急に防除を行う。
- (2) ヒノキなどの防風樹周辺、山間部や山沿い、毎年発生を認める園地などでは、早い時期から見回りを開始する。
- (3) 飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合があるので注意する。
- (4) 今後、高温・乾燥が続く場合、きゅう果の劣化が進み、離脱時期が早まるおそれがあるので注意する。

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室
(長崎県病虫害防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室
(長崎県病虫害防除所) TEL : 0957-26-0027

